

## 2019年合格目標 1次試験直前対策特別セミナー 「ここで差がつく！1次直前期の効果的な学習法」レジュメ

### 1. 第1次試験分析データ

<過去5年間の1次試験の結果の推移>

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
申込者数	19,538	18,361	19,444	20,118	20,116
受験者数* (A)	13,805	13,186	13,605	14,343	13,773
合格者数 (B)	3,207	3,426	2,404	3,106	3,236
合格率 (B) / (A)	23.2%	26.0%	17.7%	21.7%	23.5%

※欠席した科目がひとつもない受験者数。

<過去5年間の平均点の推移>

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (A)	平成30年度 (B)	差異 (B) - (A)
経済	②62.3	⑤58.9	①63.4	③61.6	①65.4	3.8
財務	⑦51.5	①68.3	②62.8	①67.0	⑥51.4	▲15.6
企業経営	④57.7	④59.1	③61.2	⑤55.1	⑤54.7	▲0.4
運営	③61.0	②63.1	⑤55.7	⑦51.2	③64.0	12.8
法務	⑥53.3	⑥55.5	⑥48.7	⑥51.8	⑦41.6	▲10.2
情報	⑤55.1	⑦49.5	⑦45.7	②62.1	④62.6	0.5
中小	①68.4	③59.2	④58.2	④59.2	②64.0	4.8
全体	58.1	59.2	56.2	58.0	57.5	▲0.5
差	16.9	18.8	17.7	15.8	23.7	—

※TAC データリサーチ（自己採点システム）による。

※網掛けは平均点 60 点以上。

※○数字は、各年度における平均点の順番（高い順）。

※「差」は、各年度における平均点の最高科目と最低科目の差を意味する。

※H28 の情報・全体、H30 の法務は、全員加点分を含まない（太枠は加点された年度・科目を示す）。

※正解の訂正等があった場合、当該科目および全体の平均点に反映している。

**2. 科目別の特徴(括弧内は過去5年間の7科目中における当該科目の平均点の順位の推移と平均順位)****◆経済学・経済政策 (②⑤①③①) : 平均 2.4 位)**

かつてに比べ、丸暗記で対応できる問題が減少してきており、根本的な理解に基づいた基礎力および初見の問題にも対応できるような応用力が試される問題が増加している傾向にあります。難易度が上昇するときは、ほとんどの受験生が知らないような内容の知識問題や、問題設定が複雑な応用問題が出題されるなど、その要因は様々です。難易度が上昇した場合であっても、学習した知識を活用して対応できる問題は適切に処理できるような力をつけておく必要があります。そのためには、理論やグラフの単純な暗記ではなく、概念や因果関係について深く正確に理解する必要があります。

**◆財務・会計 (⑦①②①⑥) : 平均 3.4 位)**

TAC データリサーチ上の平成 30 年度の平均点は、平成 29 年度と比較して大幅に低下し 51.4 点でした。難問がある中で、過去出題されたパターンで対応できる問題も多く見受けられます。それらを確実に正解することで十分点数を確保することが可能です。平成 30 年度の財務・会計の領域は、制度会計から 10 問 (40%)、管理会計から 3 問 (12%)、ファイナンスから 12 問 (48%) 出題されています。平成 29 年度に比べて、若干の差はありますがほぼ同じ割合です。また、計算と理論の割合は、計算問題が 12 問、理論問題が 13 問と平成 29 年度と同様の出題割合で、計算問題では複雑な処理を伴う問題は出題されていません。さらに領域別に見れば、ファイナンスはポートフォリオ理論、CAPM など、管理会計は経営分析、制度会計はリース会計、CF 計算書など典型的な問題が問われています。特に、管理会計とファイナンスの領域は、過去の問題が繰り返し問われることが多いです。財務・会計の対策は、管理会計とファイナンスを優先し、制度会計の基本的なものを幅広く学習することがポイントになります。

**◆企業経営理論 (④④③⑤⑤) : 平均 4.2 位)**

本科目は選択肢の文章を状況的な描写にしたり、選択肢に書かれた「具体的な内容」に「一般的な知識」を適用する能力を試したりといった設定も見られ、単純な暗記だけでは対応がしにくい問題のつくりになっています。また日本語表現の曖昧さ、正誤判断を厳密に行うための材料が十分に書かれていない、といったことも難易度を高めている要因です。ただし、出題される論点そのものは王道的なものが必ず一定割合で含まれており、基礎的な知識の整備が非常に重要になります。

**◆運営管理 (③②⑤⑦③) : 平均 4.0 位)**

以前から続く傾向として、①問題数が多い、②図表の読み解きや計算処理を行う時間を要する問題が多い、③専門的・実践的な知識を要する問題が一定数出題される、④初見の内容も一定数出題されるなどの特徴があり、これらの印象を強く持つとこの科目は難しい、と感じてしまうことがあるかもしれません。一方で、基礎的な知識を問う問題も変わらず出題されており、これらの問題を取りこぼすことなく得点していくことが運営管理で 60 点以上の得点をとる要件となっています。

**◆経営法務 (⑥⑥⑥⑥⑦) : 平均 6.2 位)**

平成 30 年度の経営法務は、この科目の出題の中心領域である会社法と知的財産権で全 25 問中の 6 割を占める 15 問が出題されました。平成 29 年度もこの 2 領域で 6 割を占めていますので、やはりこの 2 領域の対策が中心になります。

この科目は、データリサーチの平均点を見ると、平成 30 年度は、全科目を含めて過去最低となっています。つまり、過去の 1 次試験全科目を通じて、最も難しかったのは平成 30 年度の経営法務ということになります。この反動で平成 31 年度は易くなる可能性が高いですが、基本的にこの科目が易くなることは少ないです。そのような状態で合格点を確保するためには、中長期的に見れば、最低でも半分は出題される会社法と知的財産権の攻略がカギとなります。

**◆経営情報システム (⑤⑦⑦②④) : 平均 5.0 位)**

平成 30 年度の経営情報システムは、TAC データリサーチ上の平均点は 62.6 点で、平成 29 年度からさらに 0.5 点上昇して易化しました。平成 30 年度は対策が難しい統計解析からの出題がなく、システム・ソフトウェア開発からの問題が 7 問（平成 29 年度は 4 問）に増え、情報技術に関する問題も 11 問（平成 29 年度は 12 問）と頻出論点からの出題が多く、取り組みやすい構成になりました。情報技術に関する問題では新出の用語が散見されましたが、1 つの用語がわかると選択肢を一意に選択できる、与えられた情報を深く読み込むと選択肢を絞り込めるなどの特徴から、既存の知識を活用して正解できる内容でした。また、最新の IT トレンドに関する問題は、用語の概要を知っていれば対応できる一方で、知らないで正解を選べない問題も多く含んでおり、対応はやや難しかったといえます。

直近 5 年間の傾向で捉えると、基本的な知識で選択肢を絞り込める問題、専門的な知識が必要な問題、実務レベルの知識を問う問題、IT トレンドに関する問題など、知識範囲および難易度が多岐に渡っていることが特徴です。

## ◆中小企業経営・政策 (①③④④②) : 平均 2.8 位)

平成 30 年度の中小企業経営・政策は、TAC データリサーチ上の平均点が 64.0 点で、平成 29 年度の 59.2 点よりも約 5 点アップしました。この科目は過去 5 年間で見ても平成 28 年度の 58.2 点が最低で、比較的得点を取りやすいといえます。平成 31 年度も、大幅に難しくなることは考えにくいでしょう。

平成 31 年度は、中小企業経営については、中小企業白書・小規模企業白書の 2019 年版が対象となります。平成 30 年度本試験では、中小企業白書 (2017 年版) からの出題が 21 問中の 17 問を占めました (小規模企業白書 2017 年版からの出題はなし)。中小企業白書だけでも、6 割は十分確保できる計算になります。

一方、中小企業政策については、中小企業基本法や中小企業等経営強化法 (平成 30 年度は、ともに 3 問ずつ出題されています) をはじめとする頻出論点が学習の中心となることは変わりません。頻出論点を攻略することで、より一層、この科目の得点は安定します。

TAC の「1 次完成答練」および「1 次公開模試」は、上記の傾向を踏まえた、**本試験予想も兼ねた最新のオリジナル問題**を皆さんに提供いたします。

## ★「1 次パック生 [直前編]」「1 次単科生 [直前編]」について

TAC のような受験指導校を利用していない独学者の皆さんの場合、利用している人に比べて、どうしてもアウトプット (問題演習) が少なくなってしまうと思います。その点、「1 次パック生 [直前編]」「1 次単科生 [直前編]」は、各科目とも答練×2 (「1 次完成答練①②」) + 「1 次公開模試」と、アウトプットの機会を多く設けています。直前期は、インプットよりもアウトプットのほうが重要になります。TAC の答練・模試を通じて、「知っている知識」を「使える知識 (問題に対応できる知識)」に、ぜひ「転換」してください。

また、各科目とも「1 次最終講義」として、最新の法改正・制度改正等の独学では得にくい最新情報も提供いたします。TAC の「1 次パック生 [直前編]」「1 次単科生 [直前編]」を利用して、合格するための学力をぜひ盤石なものにしてください。

※「1 次単科生 [直前編]」は 1 科目からでもお申込みいただけます。

※「1 次パック生 [直前編]」は「1 次単科生 [直前編]」の全 7 科目分をまとめたもので、「1 次単科生 [直前編]」で全 7 科目をお申込みいただくよりも受講料はお安くなります。

※「1 次パック生 [直前編]」には「1 次公開模試」が含まれていますが、「1 次単科生 [直前編]」には含まれていませんので、ご注意ください。

(以 上)